

誰もが何度でも、
やり直せる社会をつくりたい。

Challenge
Document
2016

事務所に來るおっちゃんたちに聞いてみました。

Q.

ホームレス状態のとき、
何がつらかったですか？

A.

自分のエサ(食事)。食べるものがなかった。
大阪駅に出てきて、3日間空腹だった。
近くにいたおばさんがくれたパンで助かった。

安全に寝られる場所を探すこと、だったかな。
トイレが近くにあって、
襲撃されない場所をずっと探していた。

夏場の蚊。冬の寒さ。
食事より寝られないことがつらかったですね。
3、4時間くらいで目が覚めてしまうし、
コンクリートやダンボールの上だとゆっくり寝られなかった。



石井さん



野口さん



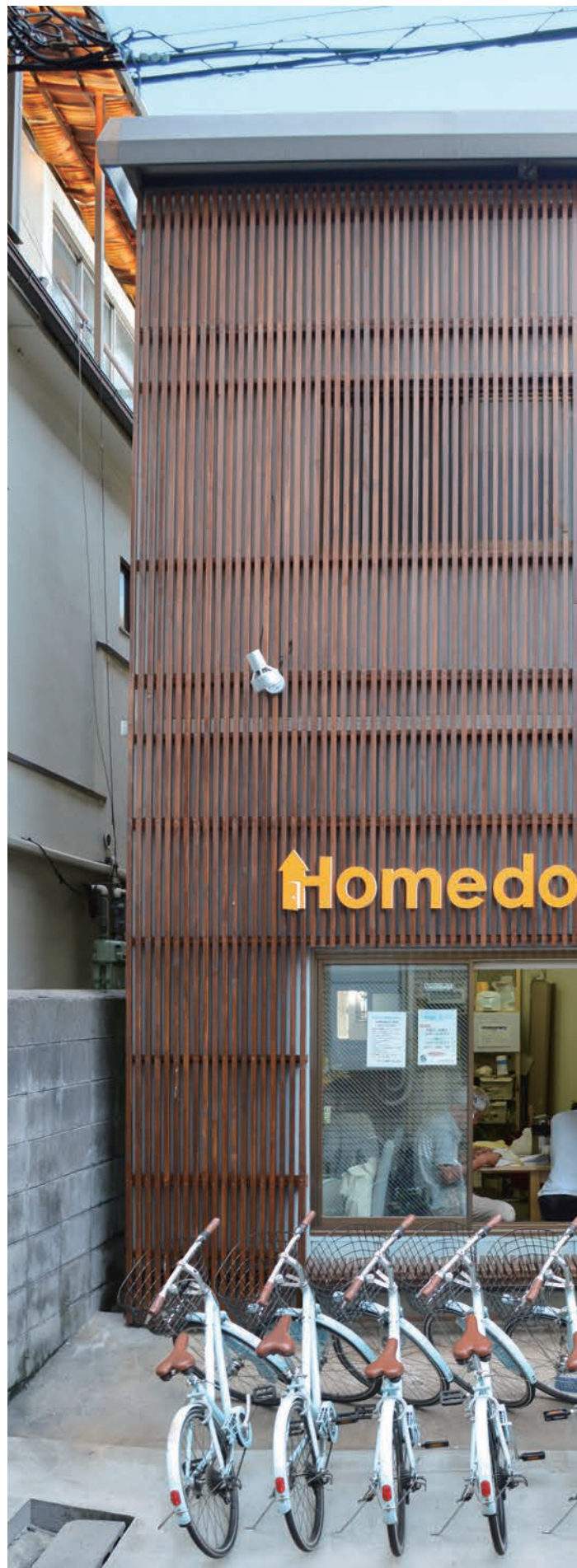
田島さん



誰もが何度でも、 やり直せる社会をつくりたい。

ホームレス状態から脱出したいと望んだら、
誰もが過酷な状況から抜け出せるように。

当時14歳の少女だった代表の願いは、
少しずつ形になりはじめています。



「川口さんの夢が、僕の夢にもなったよ。」
ある日、Homedoorで支援を受け、
ホームレス状態から抜けだしたおっちゃんが言ってくれました。

頼れる人も家もお金もなくて、
ホームレスになってしまっても
とりあえずあそこに行けばなんとかなる。

そんな場所がこの日本で、
たった一つでもあったら、
ホームレス問題変わってくるんじゃないかなって。

そんな夢を描いて12年。
2016年も、夢に向かって走り抜けた1年となりました。
私たちのチャレンジ、ご笑覧ください。

認定NPO法人Homedoor 理事長

川口 加奈

14歳でホームレス問題に出会い、ホームレス襲撃事件の根絶をめざし、炊出しや100人ワークショップなどの活動を開始。19歳でHomedoorを設立。世界経済フォーラム（通称・ダボス会議）のGlobal Shapersや、ウーマン・オブ・ザ・イヤー2013若手リーダー部門、Googleインパクトチャレンジグランプリにも選出される。1991年大阪生まれ、大阪育ち。



01 事務所に来るおっちゃんたちに聞いてみました。

ホームレス状態のとき、 何がつらかったですか？

07 私たちのチャレンジ 課題と壁、そして、チャレンジの結果

07 Challenge 01 見つける

60代後半のTさんがぼつりぼつりと話してくれたこと／急変する相談者事情

09 Challenge 02 選択肢を広げる

数時間後に届いた一通のメール／専門性を持った相談員が、ふたつの不安を和らげる

11 Challenge 03 “暮らし”を支える

Dさんが呟いた小さな贅沢／生活支援の限界と徐々に厚くなる支援の層

15 Challenge 04 “働く”を支える

30代前半のKさんが発した思いもよらぬ言葉／Homedoor流、本格就労への地ならしとは

19 Challenge 05 再出発に寄り添う

就職できると決まったTさんの衝撃的な一言／サポート後に待ち受ける最大の壁

21 Challenge 06 伝える まずは、関わるきっかけづくりから

講演会など年間60回／野宿の経験がある人に登壇していただく機会も

22 【ホームドゥ子通信】2016年度版

2016年度の主なニュースをこのページにギュッと凝縮！

23 Challenge Background チャレンジの背景にあるもの

応援してくださる方々の声／企業さまとの連携事例／支えてくださった企業さま・団体さま一覧

25 関係者に聞いた、Homedoorのこと

25 団体の規模や組織概要／これまでの道のり

26 気になる財政状況 27 目指す支援の全体像

28 達成したい2017年度のチャレンジ／いくつもあるHomedoorの応援方法

29 事務所に来るおっちゃんたちに聞いてみました。

この一年で、何が変わりましたか？

31 何度でもやり直せる社会はつくれます。
あなたと、一緒に。

Challenge

01

見
つけ
る

昼回りの様子。ホームレス状態の人を定期的に訪問し、対話の中から現状改善の糸口を探る。



Homedoorの
支援内容



深夜営業店舗の
店頭ポスター



WEB 広告・バナー



昼回り・夜回り

数字で見る2016年度

夜 **1,213**人
昼 **52**人

夜回りと昼回りで
出会った延べ人数

同じ人に会うことも多いで
すが、数日前から野宿してい
るという人に出会うことも。

夜 **16**回 昼 **7**回

夜回りと昼回りの
実施回数

夜に加えて昼間も巡回を開
始しました。日々移動してい
る人も多く、新しい出会いが
たくさんあります。

15秒で分かる2016年度

課 題

若年層のホームレス状態の人が増えた。

壁

調査がされておらず、実態がつかめない。

チャレンジ

ネットカフェへのアプローチ、
Wi-Fiを使える層に向けて広告でアプローチ。

結 果

若年層の相談が増えたが、
まだまだ深夜営業店舗へのアプローチは不足。

現場にいた人たちに聞く その時の状況と心境は？

公園の近くで寝ていたら、お弁当をもらった。お米がやわらかくて美味しかったのを覚えています。わざわざお弁当を持ってきてくれたのが、とても嬉しかった。



夜回りで出会った
小中さん

夜回りでは、ホームレス問題のリアルな現実を見ることができます。いろいろな方の人生に触れられる場でもあります。こちらから行動を起こすことで、少しでも生活をよくするきっかけになればと思いつつ、参加しています。



相談ボランティア
(スポーツ用品店勤務)
田中さん

お弁当を夜回りでもらう側と渡す側、両方を経験しました。もらう時はお弁当のもののしか見ていなかったけど、渡す時に作る側の苦労があることを知りました。拠点を持って、長く継続していくことの重要性を感じました。



夜回りで出会った
杉村さん

Homedoorに相談をしていた友だちと一緒に路上で寝ていました。野宿状態でも仕事ができるって聞いたけど「こんな自分でもいけるのかな」と不安と期待半々でした。



石井さん

ある時、
60代後半のTさんが
ぼつりぼつりと話してくれた。

「お金が尽きそうってときに最後の2000円を握りしめて百均でカミソリと髪を切るハサミを買ったんです。『いかにもホームレス』って感じにはなりたくなかったから。食べることも、社会との関わりを選んだ。

「ああ、これからどうしようかって思っていた時、ホームパト⁽¹⁾にたまたま出会って。本当によかったです。」そんなTさんは現在野宿を続けながら、綺麗にヒゲを剃りHomedoorで働きはじめている。

急変する相談者事情

ここ数年でホームレス状態の人たちのあり方は随分と変わりました。路上を生活の拠点として暮らす人は高齢化し、ネットカフェやファストフード店などを渡り歩く若い人たちが増えました。

Homedoorが夜回りを開始した2013年、大阪府でホームレス状態だった人は2094人でした(厚生労働省調べ)。2016年の同様の調査では1611人という結果になりました。ホームレス数は約4分の3になりました。路上にいる人を目視で確認しての調査となるため、ネットカフェやファストフード店などの深夜営業店舗を生活の拠点とする人は数

値に含まれていません。深夜営業店舗にいる人は派遣労働などを中心とした非正規雇用である人が多く、収入も不安定であることが少なくありません。

夜回りなどの以前からあるアウトリーチ⁽²⁾の手法だけに止まるのではなく、多様化する広義のホームレス状態の人にアプローチしていくためにHomedoorでは深夜営業店舗に広告を出し、インターネット検



深夜営業店舗向けのポスター。

索エンジンにも「ネットカフェ」「大阪」「ホームレス」などの困窮状態にある人が調べそうな単語を入れるとヒットしやすくなるしくみを考えました。

フリーWi-Fiから相談へ

駅周辺やコンビニから無料でつながることが可能なフリーWi-Fiが急増しています。これにより解約や料金滞納で止まっているスマートフォンを持つている相談者がインターネット検索し、相談にやってこられるケースが増えました。

今後、コンビニやファストフード店などフリーWi-Fiが使える場所にもどんなアプローチしていきます。

(1)ホームパト：Homedoorが行っている昼回り・夜回り活動。ホームレス状態の人々の凍死や餓死、襲撃事件を防止すべく、お弁当や生活必需品等を配布しています。
(2)アウトリーチ：本来、手を伸ばす、手を差し伸べるといった意味で、外部に訪問して行う活動を指します。

相談の様子。ひとりでは乗り切ることが難しい課題を、ひとつずつ丁寧に解きほぐしていく。



Challenge

02

選択肢を広げる

Homedoorの
支援内容

話を聞く



相談票作成
方針決定、計画作成



他団体や
公的制度への繋ぎ

連絡を取る



電話



メール



来所

数字で見る2016年度

166人

相談者数

電話、メール、来所を合わせた相談者数。相談者は年々増加しています。来所での相談が50%を占めています。

45.3歳

新規相談者の
平均年齢

前年度より0.9歳低下。若年層からの相談が増加傾向にあり、29歳以下からの相談が全体の10%となりました。

15秒で分かる2016年度

課題

専門的知識が不足していたため、支援の選択肢が少なかった。

壁

専門性を持った人を増やすための財力がなかった。

チャレンジ

寄付会員を募って専門相談員を配置し、相談ボランティアの制度を確立させた。

結果

知識を持った相談員が増え、適切な支援を行えるようになった。

現場にいた人たちに聞く その時の状況と心境は？

相談に行ったその日から、食事をとらせてもらったり服をもらえたりしてすごく助かった。こんなところ、他にはないからすごくありがたかった。



夜回りで出会った
小中さん

相談に行って最初に、他人のことやのに100%助けようとしてくれているんだなと、疑心を全く感じなかった。それが嬉しくて、ほっとした。心の扉を開けやすかった。生活保護を利用できるようになり、家に入れた後もほっとかしではなくてフォローしてくれたのは心強かった。感謝しかない。



ネット検索から相談にきた
出口さん

昨年から相談ボランティアをさせてもらっています。相談対応はうまくいかず反省することも多いですが、自分が関わったおっちゃんが、後日事務所を訪れ談笑したり食事を作っているのを見た時は、内心小躍りし、密かに喜んでいます。



相談ボランティア
(公務員)
細川さん

最初事務所に行った時は「どんなところだろう」「馴染めるかなあ」と不安もありましたが、自然と2ヶ月くらいで打ち解けていくことができました。



石井さん

50代前半のKさんは
ネットカフェのバナー広告を
見て、来所相談をしてくれた。

数日間何も食べていないという人も少なくない。そのため相談前に「お腹すいてませんか？」と声をかけるようにしている。Kさんは「実は、しばらく何も食べていないんです。」と言い、出したものを本当に美味しそうに食べてくれた。その後ご相談を聞き、今後の見通しが立ったところで相談対応を終えた。

「あのラーメンとおにぎりとお茶の味は一生忘れられないと思います。本当にありがとうございます！」
数時間後に一通のメールが届いた。

専門性を持った相談員が
適切な支援につなげる

2016年10月より有資格者(精神保健福祉士)の相談専門職員を配置し、相談支援体制の強化に努めました。また相談業務を支えるスタッフを増やすため相談ボランティア養成講座も年度内に2回開催し、計8名の相談ボランティアに活動へ関わっていただくことができるようになりました。専門性を持った相談員が対応をできたことで支援にも広がりが出た1年でした。

提供できる選択肢は「食事・物資の提供」「就労場所の提供」「宿泊場所の提供」「公的支援へのつなぎ」「他団体へのつなぎ」「情報提供」と



相談ボランティア養成講座の様子。講義や見学、テストを通じて相談業務の一翼を担うボランティアを育成していく。

多数ありますが、それぞれの方からお話を聞き、本人の意思を尊重したうえで、こういった支援を行なっていくのかを決定しています。
また、提供できる選択肢を増やすことにも注力し、相談者の希望にできるだけ沿えるよう改善を図っています。

ふたつの不安を和らげ、
「今」と向き合う

相談にやってくる人たちは「このままでは生活できるのだろうか」「ここに相談して大丈夫だろうか」という、ふたつの不安を抱えてHomedoorの扉を恐る恐るノックしてくれます。

私たちがしていくべきことは一杯のSOSを受け止め、不安を和らげ、一緒に「今」と向き合っていくことだと考えています。
不安をすぐに払拭することは難しいですが、お一人お一人とゆっくり時間をかけて対話し、ご本人が心の扉を開きやすいように気をつけています。

Challenge

03

暮らしてをまゐる

「年末年始はほとんど誰とも話してなかったから、すごく楽しかった」という声も。好評だった餅つき大会。



Homedoorの
支援内容



宿泊施設（シェルター）
の運営



居場所・関係づくり



居宅移行支援
（転居サポート）

数字で見る2016年度

15回

開催したイベントの回数

お花見や流しそうめんなど
季節を楽しむイベントを
実施しました。地域の方にも
多くの企画にご参加いただ
きました。

105人

「ホームハウス」オープンで
支えた寄付者数

社会を変える鍵となる住居
（ホームハウス）オープンのため
にたくさんの寄付が集ま
りました。（詳しくはP13）

15秒で分かる2016年度

課 題

生活支援メニューが不十分。
住宅支援ができていない。

壁

就労支援で精一杯で、生活支援に労力が
割けていない。住宅支援を行う財力がない。

チャレンジ

新たなステークホルダーと協働し、
生活支援メニューを拡充。

結 果

リサイクルショップとの協働、初となる住居提供の
開始など、新たな取り組みがたくさん生まれた。

「自分でもびっくりしたんだけどさ、アイス、食べたくなっちゃったんだよね。」

ホームハウス⁽¹⁾に入居中のDさんがそう呟いた。

「路上にいた頃は、寒いからアイスなんて絶対食べたいと思わなかったのに、布団で寝られるようになってから冬場なのにアイスが食べたいって思うようになったんだよ。贅沢だよね。」

冬場の野宿は特に大変だと言う人は多い。Dさんもその苛酷さを知っているからこそ、自分の中に生まれた小さな贅沢に驚いたのだろう。

職員の少なさによる生活支援の限界

ホームレス状態の生活は実はいろんなお金がかかるということを知っている人はあまり多くないのではないだろうか。

生活の拠点がないと、食事は必ず外食になるし、生活に必要な物はすべて持ち運ばなければならず、大きい物や季節性のあるものはコインロッカーに入れたり季節ごとに買ったりする必要がある。洗濯はコインランドリーになり、体を洗うにも銭湯やネットカフェに行く必要があります。そこで、少しでも生活にかかるお金を節約してもらえたらと、「ホッ

ト&ハウス」(詳しくはP14)を2015年に開設。そこを休憩場所として使用してもらい、月に一度はお楽しみイベントを実施し、食品や衣料品を提供するということが生活支援の主な内容でした。職員が少ない中では、これが限界でなかなかそれ以上の支援ができていませんでした。



大阪理容組合との連携により、専門学校の学生さんによるカットモデルを開始。髪を切ってもらえ謝礼ももらえると好評だった。

徐々に厚くなる支援の層

2016年度は新たに、住居「ホームハウス」、「&食堂」、リサイクルショップとの提携による「モノギフト」を開始することができました。

支援の層が厚くなるということは、それだけ多くの方に共感いただき、一緒にアクションを起こしていただけたということの証明でもあります。住居提供に関しては法人として初めてのクラウドファンディングを実施し資金を集めました。

ホームレス問題はまだまだ認知が進んでいない社会課題ではありますが、個人・法人問わず多くの皆さまに支えていただけるようになったことを深く感じました。

現場にいた人たちに聞く その時の状況と心境は？

少しでも皆様の気持ちが前向きになっていただければと思い、餅つきや花見などの季節を感じるイベントや夜回り活動に参加し、皆さまとお話させていただいております。
このような活動を通じ、皆さまを支援できればと考えております。



ボランティア
(電機メーカー勤務)
酒井さん

今までは河川敷のテントか公園くらいしか居場所がなかった。
でもHomedoorを知ってひとときの安らぎを味わえる場所を見つけました。
他にも支援団体はあるけど、事務所を構えていてゆっくりできるところはなかなかないので、助かっています。



夜回りで出会った
中田さん

ホームハウスに入るようになって寂しくなくなりました。
家に帰ると「ただいま」と自然に自分言っていて、「おかえり」って言ってくれる人がいることがすごく嬉しいです。
3人で暮らしていたから、会話も弾むしご飯も1人で食べていた時より美味しく食べれました。



石井さん

(1)ホームハウス:2016年度にオープンした、ホームレス状態の人向けの住居(詳しくは次頁)。



「自分には贅沢すぎる。キッチンが大きくて、コンロで自炊できるのが何よりも嬉しい」と入居者に好評。



長年の夢だった

住居提供の第一歩

2010年の設立時から私たちに
は夢がありました。「住居を提供す
る」という夢を形にするために、法人
初となるクラウドファンディングを
2016年10月に実施しました。

105名の方から138万5千円
を頂戴し、3名が入居できる3DK
のシェアハウス「ホームハウス」をオー
プンしました。既に法人から就労支
援を受けているホームレス状態の人
たちに住居を提供し、住民票や身分
証明書の取得などに役立ててもらい
ました。自炊をする日を決めたり、共
同で食事をする時間を設けたりする
など入居者が自らルールを考える場
面が多々あり、住居を持つというこ
とが社会生活を送るひとつの訓練に
なることを知りました。

入居者のうちひとりとは定職に就
くことができましたが、まだまだ私
たちの挑戦はこれからも続いてい
きます。

ほっと安堵できる場所



月一回の健康相談会。



調理経験者が腕をふるう「&食堂」。



縁側で談笑できる心地よい空間。

手づくりご飯と健康相談を

2015年3月に大阪市北区豊崎に事務所移転をし、その場所に「ホット&ハウス」という名前をつけました。人生のどんな局面にあつたとしても、訪れた時にほっと安堵できる場所であってほしいという願いが込められています。

日常的な居場所として機能することはもちろん、月に一度季節を感じられるイベントを実施し、人と触れ合うことや立ち寄れる場所があることの意味をみんなで考える機会を提供しています。

2016年度より「&食堂」と題し、調理経験のある当事者やボランティアによる栄養バランスを考えた手づくりご飯を月に一度食べるプログラムも開始。「あったかいご飯なんていつぶりやろ...」「みんなで食べると美味しいなあ」と評判は上々です。同日には看護師さんにお越しいただき、健康相談会も合わせて開催しています。

いろんなモノが、ギフトに

かねてからの懸念が 企業の支援で解消



パソコンだけでなく、スマートフォンからもお申込できます。

洗濯機から夜回りで使う割り箸まで、大小様々な寄付品が年間で200ほど届きます。アパートに入る時期と寄付をいただくタイミングが上手く重なればいいのですが、時期がずれる時は狭い事務所にモノが溢れ当事者がゆっくりできないという問題が多々起きました。

そこで、全国25店舗のリサイクルショップを持つ株式会社ベストバイからご支援いただき、大型家電を中心とした寄付物品を買取っていただき、その売り上げで必要な時に必要な家電などを購入させていただく「モノギフト」を2017年1月から開始しました。

これまではスペースの都合、お断りしていた物品のご寄付も多くありましたが、不要になった「モノ」を野宿を脱しようとしている人への「ギフト」として役立てることができるようになりました。

行政から委託を受けている自転車対策業務(詳しくはP17)。先輩スタッフと新人が連携するようなくみにしている。



Challenge

04

働くを支える

Homedoorの
支援内容



仕事の提供
(自主事業/民間・行政委託)



一般企業との
マッチング



貯金

数字で見る2016年度

30人

就労支援提供者

目標としていた30名へ仕事提供を行うことができました。平均年齢は53.8歳でした。

4種類

就労支援メニューの数

HUBchari(自主事業)、自転車対策(行政委託)、チラシ折や裁断などの内職に加え、清掃(民間委託)を新たに増やし、職種に幅が出ました。

15秒で分かる2016年度

課題

働ける職種が少ない。次の就労先につながらない。

壁

貯金や続けられる自信・確証がないと次の仕事で働こうと思えない人が多い。その日暮らしに慣れてしまっている。

チャレンジ

就労支援メニューを受けながら次の仕事を一緒に探していくスタイルに変えた。就労支援メニューを増やし自信をつけられるようにした。

結果

就労できる人が増えた一方で停滞層もまだ多い。

「言葉が通じなくても、
人間は理解しあう」

HUBchari⁽¹⁾で働いていた30代前半のKさんが思いもよらぬ言葉を発した。引っ込み思案で人と打ち解けるのが苦手だったはずの彼が、どうしてそんなことを言うようになったのだろうか。

答えは簡単だった。HUBchariの利用者は日本語が通じない外国人が大半で、身振り手振りと簡単な英語で会話をすることが多いから。人と目を合わせるのも苦手だったKさんが自分から言葉が通じない相手に歩み寄ろうとしている。相手を「知ろう」とする意識を持ち始めたKさんをこれからも応援していきたい。

その人の得手不得手に
合わせた仕事を

「働きたい」と思っても、ホームレス状態で働ける仕事はほとんどありません。日本では住所や電話番号、場合によっては身分証がなければ就職することが難しいのです。

また、なんとか就職先が見つかったとしても給料が月払いだと、初任給が入るまでの生活費や交通費が足りなくなり、結局仕事を辞めざるをえない人も多いのが現状です。

「働ける体と心があるのなら、どんな人でも仕事ができる環境をつくりたい。」そんな思いで2012年度から仕事を提供してきました。自主事業や行政委託だけでなく、2016

年度は新たに民間委託の清掃業務を開始しました。いろいろな支援メニューをつくることによって、その人の得手不得手に合わせられるようになります。

本格就労への地ならし

Homedoorで働くことで少しずつ仕事をするリズムを体に取り戻してもらいだけでなく、その日暮らしの生活から次の仕事を探したりアパートを借りるための費用を少しずつ貯金してもらう生活スタイルに切り替えてもらうこともねらいのひとつです。ネットカフェやドヤ(簡易宿所)などは日払いで支払うため、なかなかひと月ごとにお金を支払うとい

う習慣が身につかず、自分で金銭管理をしつかりできない人も多いのが実情です。

Homedoorを卒業してすぐ次の仕事に就くとなると金銭的にも余裕がなくなり、さらに周辺環境が一気に変わるため精神的にも不安定になってしまったため、本格就労への地ならしとしてHomedoorの仕事と並行しながら一般の仕事に就いてもらうという形をとり、試行錯誤をした一年でした。



仕事の現場では、各人の得意分野や創意工夫が光る。

現場にいた人たちに聞く その時の状況と心境は？

Homedoorにお世話になった3ヶ月間で、お金の貯め方を知りました。お金を貯めて、自分の能力をフルに使える仕事を新たに探し出して、今は仕事も住居も安定しています。



差し上げた財布を卒業後も大切に使ってくれている
Sさん
(自転車啓発勤務)

「支援」を受けているというより「仕事」をさせてもらっていると感じます。おかげで次の仕事を見つけるイメージができるようになりました。



家を借りるために奮闘中の
伊藤さん
(HUBchari 勤務)

野宿状態でも確実に得られる収入があるというのはありがたかったです。もともと自分は調理の仕事をしていたので、そのあと居酒屋の調理の仕事を紹介してもらえ、新しい場所で働くことができるようになりました。



調理の仕事に精を出す
山田さん
(自転車啓発勤務)

働かせてもらうようになって、数ヶ月でまずドヤ(簡易宿所)に泊まれるようになり、路上で寝なくてもよくなりました。仕事をやる中で友だちができたし、周りにも気遣うようになって綺麗好きになりました。



石井さん
(自転車啓発・清掃勤務)

(1)HUBchari[ハブチャリ]:「ホームレス状態の人の特技を仕事にしよう」と生まれたシェアサイクル事業(詳しくは次頁)。



スマート会員はICカードで開錠。



海外観光客の対応も、場数で勝負!

HUBchariが解決する問題

▶ 生活保護問題・ホームレス問題

- ・生活保護費 **2兆6千億円**
- ・ホームレス数 **10,890人**

▶ 自転車問題

- ・放置自転車台数 **17万台**
- ・撤去費用 **8,750億円**

(2011年度 全国統計)

利用者の利便性向上へ

自転車で空き缶を集めている人を見たことはありませんか? 実はホームレス状態の人のうち約7割は廃品回収を経験しています。日常的に自転車を使っており、「ホームレス状態の人の特技を仕事にしよう」と2012年に生まれたのがシェアサイクルHUBchari(ハブチャリ)です。

これまで支援を受けることが多かった人が社会問題を解決する側に回ることができ、「自分が社会と関わって嬉しかった。こんなやつでも役に立っちゃんって思えるようになった」と仕事を通じて自分の存在意義を見出せるようになる方が多いのも大きなポイントです。

今年度は株式会社ドコモ・バイクシェアとの協働によりスマート会員システムの導入も開始。卒業生が店長を務めるお店が新たな拠点となり、通天閣(新世界)近くでも自転車を借りられるようになるなど、利用者の利便性も向上しました。

自転車対策啓発事業



まだまだ多い、大阪の放置自転車。



声をかけあい、連携して取り組む。



取り組みやすい仕事をつくる

まずは、慣れ親しんだ

「自転車」に関する仕事から

「自転車」に関する仕事を提供しようとして2014年から開始した放置自転車対策業務。大阪市内の各区から委託を受け、駅前に止まっている放置自転車を整理しています。

ホームレス状態の人たちにとって自転車は生活の足です。慣れ親しんだ自転車に関する仕事であり、2人もしくは3人一組での業務となるためしばらく仕事から離れていた人でもやりやすい内容となっています。

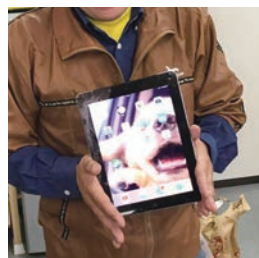
行政からの仕事ということで身も引きしまります。事務所へ相談にこられた日は無精髭によれたTシャツ姿だった人が、勤務初日には髭を綺麗に剃りさっぱりとした見た目になっていました。啓発事業ではピアサポート⁽¹⁾を大切にしており、ホームレス状態から居宅に移った先輩スタッフが業務のやり方やお金のやりくりなどを初めての人に教えてくれるのも事業の特徴のひとつです。

(1)ピアサポート: 同じような立場の人によるサポートを指します。

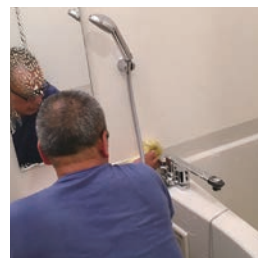
就業支援メニューを新たに追加

次の仕事にマッチング

清掃業務



連絡手段に大活躍のタブレット。



丁寧な仕事を隅々まで。

おっちゃんスマホ!?

ホームレス状態の人が仕事をするとき、連絡手段がないことがネックになります。清掃事業で新しく取り組んだのは、スマートフォンやタブレットの導入です。

ご寄付でいただいた機器をスタッフに貸し出し、グループチャット機能を使って業務のやり取りを行いました。業務報告はカメラで写真撮ってもらい、地図アプリやWEBフォームも使って効率化を図りました。



事務局スタッフ
東野

最初はタブレットを触ったことがなかったスタッフも、慣れると絵文字やスタンプを使いこなす軽快にやり取りできるようになります。現場で困ったことがあったときはグループチャットで相談し助け合うなど、チームワークの向上にもつながりました。

2016年度は、新たに清掃業務が就業支援メニューに加まりました。

特別な技術がなくてもできるの
で、若い相談者などで就業経験が
少ない人でも取り組みやすく、細やか
さや丁寧さを求められるので、達成
感や向上心を得ることにつながりま
す。身体を動かすので、心身のリフ
レッシュにもなります。今後も、作業
の質と信頼度を上げ、さまざまな企
業様から業務を受託できるよう努め
てまいります。

ホームネット



企業との連携の一環として、大手ネットカフェの協力をいただき同店舗のパソコンにHomedoorのバナー広告を貼り、深夜営業店舗を生活の拠点にしている人の相談受付を行っている。

企業さまを大募集中です!

何度でもやり直せる社会に向けて一石を投じてくださる経営者さま、ぜひ一肌脱いでください!



理事長
川口 加奈

就業支援のその次を 後押しするプロジェクト

HUBchariなどで就業支援を受けたスタッフたちの多くが、次の仕事につながっていくようになりました。しかし、自力で仕事を見つけた人がいる一方で、年齢などを理由に、なかなか次の仕事が見つからない人たちもいました。

そんな時、テレビや講演会でHomedoorの取り組みを知った企業から、Homedoorのスタッフを紹介してもらえないかという問い合わせが相次ぐように。特に最近では、有効求人倍率もあがり、人手が足りない企業も増えてきました。

そこで、そんな企業とHomedoorで就業支援を受けたスタッフたちをマッチングするプロジェクト「ホームネット」を開始。必要となる、有料職業紹介の資格も2015年度に取得しました。



Challenge

05

再出発に寄り添う

Homedoorの
支援内容



居宅生活の開始



就職

数字で見る2016年度

97人

当事者経験のある
夜回り参加者の延べ人数

卒業した人が伴走者になることが多いのもHomedoorの特徴のひとつ。昼回りや夜回りを一緒にまわってくれる人も非常に多いです。

50%

就労支援をした人の
就職率

2016年度に新規で仕事提供をした人のうち、就職できた人は全体の半分でした。仕事に定着できるようになるまで、見守り続けます。

15秒で分かる2016年度

課題

卒業後、遁走⁽¹⁾してしまう人が多い。

壁

職場が合わない、急にいなくなってしまう人が多い。

チャレンジ

連絡体制を強化し、ゆるやかな関係性を保てるようフォローアップ体制を整える。

結果

卒業者がHUBchari拠点を開設してくれた。

(1)遁走：突然逃げ出して行方不明になってしまうこと。

30代後半のTさんが

野宿を完全に終え、

就職できると決まった時、

衝撃の一言を放った。

「新世界のすぐ近くのカラオケ屋で
店長することになってんけど、

HUBchariの拠点にする？」

最初は職員一同「本当に大丈夫？」

と嬉しさと戸惑いが入り混じった気
持ちになったが、これは彼なりの恩
返しであり再出発への決意表明なの
だと拠点をオープンして程なく気づ
いた。

「もう相談者にはならないよ」

という強いメッセージがそこには
あった。

サポート後に待ち受ける 最大の壁

ホームレス状態になる過程で多く
の人は家族や友人、それまで勤めて
きた会社などと縁を切らざるを得
ず、頼れる人がいない場合がほとん
どです。

だからこそ仕事を見つけたり、安
定して家にいれるようになったりし
た「再出発」を果たした人にこそ、寄
り添いを続けることが必要だと感じ
ています。

仕事が見つかったとしても、生活
保護などの制度を利用して居宅に入
れるようになったとしても、そこで
サポートは終わりません。実はここ
に最大の壁が待ち受けているので

す。「次の給料日までこの手持ちで
やっていけるだろうか」「ずっと野宿
をしていたからアパートでちゃんと
自分は暮らせるんだろうか」と不安

がどんどん大きくなっていき、その
不安を解きほぐしてくれる相手がい
ないと無断欠勤や失踪という事態を
引き起こしてしまうのです。ここで
またつまづいてしまうと、「もう自分
は何をやってもダメなんだ」とネガ
ティブになってしまい、「もう一度頑

張ろう、やりなおしてみよう」という
氣力を失ってしまうのです。

決して簡単ではない 「寄り添う」ということ

定職についた人、畳の上で寝られ
るようになった人が、信頼して相談
できる相手を見つけれられるまで、私
たちのチャレンジは続きます。

寄り添うことというのは決して簡
単なことではありませんが、「ここを
ちゃんと卒業できたからこそ、ずっ
と事務所に顔出せるように頑張ろ
うって思うねん。今度は俺がみんな
を応援する番や。」と仲間がどんど
ん増えていくことが活動の励みになっ
ています。

現場にいた人たちに聞く その時の状況と心境は？

家に入ることができるようになって、
外と違ってゆっくりできる。野宿して
いたときは朝早くにどうしても目が覚
めてしまったし、夜中に一度目が覚め
るとなかなか寝付けなかった。



アパートに入居中の
Kさん

路上生活から居宅生活を始め毎日
Homedoorに通い仲間と楽しそうに過
ごしている姿をみるのが今一番の楽
しみです。
一人一人の話を聞くと決して「自己責
任」という言葉で片付けられない事情
があります。ここにきた皆さんがもう
一度自分の人生をやり直す一歩を一緒
に踏み出せるよう全力で関わり続けたい
です。



Homedoor 相談員
(精神保健福祉士)
笠井

今は仕事も安定していて、家も借りる
ことができるようになりました。
最初仕事に就いた時、朝早いし職場に
馴染めないんじゃないかと思って辞め
ようかなと思ったのですが、「ここで自
分に負けたらダメ」と自分に対して闘
争心が芽生えました。
今では長く続けられる仕事だと確信
しています。引越した時は職場の人
が赤飯を作ってきてくれました。



石井さん

2016年度の実績

講演(60回)

大阪府立北野高校、三菱財団、大阪市教職員研修会、
堺市役所生活支援管理課、京都市民医連、
岩倉使節団・米欧亜回覧の会 等

受賞(1件)

第55回関西財界セミナー「輝く女性賞」

メディア掲載

- ・朝日放送「キャスト」
- ・読売テレビ「かんさい情報ネット ten」
- ・BSTV まちづくりマスター ～切り開く者たち～
- ・ABCラジオ 堀江政生のほりナビクロス
レギュラーコメンテーター「川口加奈の社会の“カナ”眼!」
- ・毎日新聞「アタラシゴト・社会を変える一歩」
- ・日本経済新聞「ホームレスに住居を提供」 等

電通ソーシャル・ポスター展にて、電通グループのクリエイター
の皆様ボランティアでポスターを制作していただきました。



2016年度は年間60回の講演会
やワークショップなどを実施しまし
た。Homedoorでは多くの人にホー
ムレス問題を知っていただく機会を
提供し、問題を知ってしまった方を
ステークホルダーとして、継続的に
関わってもらう関係性作りに重きを
置いています。



理事長の講演に加え
て、野宿の経験があ
る人に登壇してもら
うことも

Challenge

06

任

え

ふ

まずは、関わるきっかけづくりから

講演会に登壇した当事者の声

自分の野宿していた過去を話すのは最初は恥
ずかしかったけど、悪いことをしたわけでは
ないから正々堂々と話をすることができたと思
います。



HUBchariスタッフとして就労中
佐藤さん(40代)

講演会でお話しさせてもらったら、100人近い
人がきてくれていて、こんなにも多くの方が
支えてくれているんだって感じた。自分には
もう家族がないからこうやって知ろうと思
ってくれる人がいることが嬉しかった。



アパートを借りるための貯金に励む
Tさん(50代)

講演会を主催した方の声

講演を聞いてハッとするフレーズ「知ったから
には知ったなりの責任がある」の通り、私もで
きることから始めようと、川口代表の講演をこ
れからも色んな人にアテンドしていきます。



ジブラルタ生命保険(株) 京都支社
西野 健次さん

少ない人材で幅広い支援事業を成り立たせる
秘訣を知りたい!と思い、ご依頼させていた
だきました。Homedoorは委託事業に依存し
ない仕組みを持ち、対象者に応じた柔軟な支
援の提供が強みだと再認識しました。



関西学院大学 准教授
白波瀬 達也さん



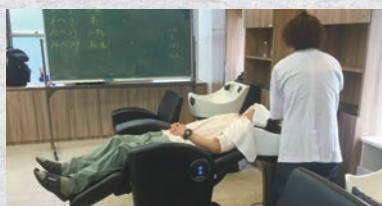
【ホームドゥ子通信】2016年度版

2016年度の主なニュースをこのページにギュッと凝縮！

2016 5月 月に1～3回、カットモデル開始

大阪理容組合との連携により月に1～3回のカットモデルを開始しました。

野宿状態だと散髪できる機会が限られています。人と関わるのが少なくなることを鏡を見ることもなくなるため「いい機会になった」と非常に好評です。



2016 6月 理事が2名増え、5人体制に

2015年度に参加した社会イノベーター公志園*の伴走者から、新たに2名をHomedoor理事として迎え入れることになりました。

理事5名、監事1名の体制で運営しています。(※社会イノベーター公志園[こうしえん]とは、新しい経済社会の実現に向け、挑戦する社会イノベーターの支援を行っている組織です。)



2016 10月 Homedoor初のクラウドファンディング

多くの方によるご協力のおかげで、住居の提供を開始することができました。リターン品として株式会社モンベルとのコラボグッズ製作ができるなど新たな取り組みも開始しました。(詳しくはP13)

多くのメディアにも取り上げていただき、ハウジングファースト*が注目されているということを実感できました。

(※ハウジングファーストとは、住まいを失った人々への支援において、安心して暮らせる住まいを確保することを最優先とする考え方です。)

2016 10月 5周年記念パーティを実施

法人化5周年を記念して、東京と大阪でパーティを実施しました。大阪会場は卒業生が店長を務めるカラオケ歌居屋をお借りしました。お世話になった企業のご担当の方、いつもきてくださっているボランティアの皆さんも多数きてくださり、5周年に相応しい会となりました。



2016 8月 相談ボラ講座、相談専門職員を配置。

「相談対応に関わりたい!」と声を上げてくれる方が多く、ボランティア養成講座を2回開講しました。(詳しくはP10)

職員による講座だけでなく西成区の医療ソーシャルワーカー奥村さんにもお話をいただき、計8名の相談ボランティアがHomedoorの相談対応を担っています。さらに相談専門(精神保健福祉士)の職員を迎え入れたことにより、相談対応が円滑にできるようになっただけでなく、他の職員や相談ボランティアも相談支援に関する理解が深まりました。

2017 1月 寄付がしやすい認定NPO*に

全国5万団体あるNPO法人のうち、2%しか認定されていない「認定NPO法人」になることができました。これにより寄付がぐっと集めやすくなりました。(詳しくはP31)

(※認定NPOとは、所轄庁から高い公益性が認められたことにより寄付者が税制上の優遇措置を受けられる制度です。)



2017 1月 企業のご協力で電動自転車を導入

2012年から開始したHUBchariについて電動自転車を導入されました。

自転車とモバイルを融合させた環境に配慮したサイクルシェアリングシステムを展開している株式会社ドコモ・バイクシェアとの協力により実現しました。

企業との協働が増えるごとに、多くの方の理解に支えられていることを実感します。(詳しくはP17)



2017 1月 「モノギフト」で無駄なく物品寄付

年間200件を超える物品寄付を活用できる新たな仕組みをつくりました。

リサイクルショップ大手のベストバイに家電などを買取っていただける仕組みをつくったことで、これまでお断りしていた家電なども多く活用できるようになりました。(詳しくはP14)



2017 2月 輝く女性賞を受賞

「関西において、優れた技術やビジネスモデルを持ち、独自性を生かして関西の活性化に貢献している企業・団体・個人など」を表彰する関西財界セミナー(関西経済同友会、関西経済連合会 共催)にて「輝く女性賞」を受賞いたしました。



Homedoorを応援してくださる方々に聞きました。

Q. なぜ、Homedoorを そんなに応援するんですか？

Homedoorと出会って、 3つの大きな学びがありました。

まずは「意志と行動があれば、少しずつかもしれないけど、社会は必ず変わる」ということ。
そして、「ホームレスの人たちは、私たちの今の社会がもたらした結果であり、原因はむしろ社会の方にある」ということ。
3つ目は、「一度失敗したら立ち直れないのではなく、何度でも挑戦できる社会を作りたいと思った」ということです。これからはHomedoorの活動を力一杯応援していきます！



ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
代表取締役
安淵 聖司さん

川口さんは名言の宝庫です。

当社は、デザインやクリエイションを通じてNPOのブランディングをお手伝いしております。
最初に川口さんにお会いしたときに、物凄い数の支援メニューやお仕事を用意されていたのです。「メニュー多すぎてわかりにくい不是吗？」って尋ねたら、川口さんは「どんな立場の人でも選択の自由が豊富にあることが大事なんです」とキッパリと返答され衝撃を受けました。そんなキッカケから始まったお付き合いも現在では出前サービスアプリ開発にまで及んでいます。「知ったからには、知ったなりの責任がある」本当に川口さんは名言の宝庫です。



株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント・サービス
代表取締役社長
福田 淳さん

熱心で、創造的で、行動力ある組織

何年も前にNHKの番組でホームレス支援団体の活動を見て感銘を受けました。
50歳を過ぎ、今ようやく生活に余裕ができたので何か行動を起こしたく、地元で同様の活動を探していたところにHomedoorがありました。熱心で、創造的で、行動力ある若い人々の組織を応援したいと思っています。



相談ボランティア
(不動産賃貸業)
岸岡 庸之さん

企業さまとの連携事例① 株式会社モンベル

株式会社モンベル様のご支援でチャリティグッズを製作しました。

「家があるからこそ、アウトドアは楽しめる！」をコンセプトに株式会社モンベル様のモンベルクラブファンダからのご支援でチャリティグッズを製作しました。クラウドファンディングのリターンとして製作いたしましたが、事務所や講演会場などでも販売しております。

たまに自然の中でゆったりとした時間を過ごすという良い気分転換になりますが、アウトドアは「家」という日常空間があればこそ楽しめるものです。アウトドアメーカーとホームレス支援をつなぐ言葉としてTシャツには「HIKE for Home」とメッセージを入れました。



この1年間、Homedoorを支えてくださった企業さま・団体さま



株式会社アクロス



大阪ガス株式会社



積水ハウス株式会社



株式会社
セールスフォース・ドットコム



株式会社
ソニー・デジタル
エンタテインメント・サービス



Peach Aviation株式会社



プルデンシャル生命保険
株式会社



株式会社ベストバイ



ChatWork株式会社



株式会社ドコモ・バイクシェア



浜口産業株式会社



ベアーズ



株式会社ペライチ



大正銀行



ホテル中央グループ



株式会社モンベル



LOGICAL ARTS



株式会社ロッキーマン

一般社団法人 水都大阪パートナーズ、株式会社 アイ・プランニング、大阪市ボランティア活動振興基金、大阪東急REIホテル、カラオケ歌居屋、グーグル株式会社、クジラ株式会社、株式会社バイタル、認定NPO法人ふーどばんく大阪、認定NPO法人 フードバンク関西、特定非営利活動法人 フリーヘルプ、特定非営利活動法人 HEALTH SUPPORT HINATA、独立行政法人 福祉医療機構、一般社団法人 ホームレス問題の授業づくり全国ネット、丸紅基金、ヤフー株式会社(敬称略・五十音順)

企業さまとの連携事例② ロジカル・アーツ株式会社

最後まで寄り添ってくださった皆さまの姿勢には、感謝の気持ちでいっぱいです。

650人を超えるボランティア管理をこれまでは手動で行っていたため、夜回りなどのイベント参加人数を把握することにも時間がかかっていました。

システム開発をされているロジカル・アーツ様が約半年間全面協力をしてくださったおかげで、セールスフォースでのボランティア登録制度の再構築、イベント参加者の管理の簡素化をはかることができました。

「こういったものがあれば業務が楽になりますか?」「こういう風な仕組みでやって

みるのはどうでしょうか?」と最後まで寄り添ってくださった皆さまの姿勢には感謝の気持ちでいっぱいです。

Homedoorの活動上「ホームレス支援」という面ばかりが強調されがちですが、こう



実際にロジカル・アーツ様にご協力をいただいていた構築した受付画面の例。

してバックオフィスを支えてくださる企業さまがいるということ自体が活動の支えとなっています。



半年間という長い期間、ずっと親身にご対応いただいたロジカル・アーツの皆様。

事務局長に聞きました。

お答えします！



Homedoor
事務局長
松本 浩美

Q. 団体の規模や、組織概要を教えてください。

A. 2017年で設立7年目を迎えます。
事務局スタッフ4人、ボランティアを含め約700人で構成されています。

設立 2010年4月(2011年10月NPO法人格取得、2017年1月認定NPO法人格取得)
ビジョン ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる
スタッフ 事務局スタッフ:4名(2017年3月時点・内2名が役員を兼任)、ボランティア登録者:664名
相談ボランティア:8名、当事者スタッフ:20名
役員 理事:5名、監事1名(下記参照)



理事長
川口 加奈



理事
事務局長
松本 浩美



理事
杉浦 元
(エリオスキャピタル株式会社 代表取締役社長)



理事
竹原 啓二
(株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長)



理事
岩田 真吾
(三星グループ 代表取締役社長)



監事
木原 万樹子
(木原法律事務所・弁護士)

Q. これまでの道のりを簡単に教えてください。

A. 始まりは、釜ヶ崎のモーニング喫茶から。
理事長の川口が19歳の時に立ち上げた団体です。

- | | | | |
|---------|--------------------------------|--------|--|
| 2010.04 | 任意団体設立 | | |
| 2010.08 | 大阪・釜ヶ崎(西成)でモーニング喫茶を開始 | ●----- | <p>大学生3人で団体名もないままに、ホームレス問題を解決したいという思いで設立しました。</p> |
| 2011.10 | NPO法人格取得 | | |
| 2012.04 | HUBchariオープン | | |
| 2012.09 | 大阪市住吉区とHUBchari協働開始(2013.03まで) | ●----- | <p>住吉区でのオープニングセレモニーの様子。</p> |
| 2013.04 | 大阪市北区とHUBchari協働開始(2014.03まで) | | |
| 2013.11 | 大阪市北区にてホームパト(夜回り)開始 | ●----- | <p>ホームパトの様子。大阪市北区を中心に当事者の方とも回りました。
©DaisukeGondo</p> |
| 2014.01 | ボランティア登録制度導入 | | |
| 2014.04 | 自転車対策業務を活用した就労支援を開始 | | |
| 2014.11 | 深夜営業店舗にてバナー広告の掲載開始 | | |
| 2015.03 | Google インパクトチャレンジ『グランプリ』受賞 | | |
| 2015.05 | ホット&ハウス開所 | ●----- | <p>自炊、洗濯ができる設備や、休憩ができる場の提供を始めました。</p> |
| 2015.10 | 有料職業紹介資格取得 | | |
| 2016.03 | 仮認定NPOとして大阪市より認定 | | |
| 2016.08 | ホームハウス開始 | ●----- | <p>ハウジングファーストを叶えられるよう3室を提供し始めました。</p> |
| 2017.02 | &食堂開始 | | |
| 2017.03 | 認定NPOとして大阪市より認定 | | |

担当税理士に聞きました。

Q. 財政状況はどうなっていますか？

お答えします！



税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子

A. おかげさまで、事業は着実に伸びていっています。
寄付も皆様のおかげで順調に増えていますが、
P28の緊急シェルター設置に向けさらなるご寄付が必要です。

活動計算書 (6期:2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:円)

経常収益	賛助会員受取会費	5,000
	受取寄付金	26,899,149
	受取助成金	11,519,740
事業収益	事業収益	5,929,370
	受託事業収益	12,441,125
	その他事業収益	620,420
その他収益	受取利息・雑収益	261
経常収益計		57,415,065
経常費用	事業費	人件費 22,217,868
		その他経費 15,528,501
	管理費	人件費 1,107,830
		その他経費 1,680,006
経常費用計		40,534,205
経常外収益		2,432,991
経常外費用		26,563
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		19,217,288
前期繰越正味財産額		30,759,217
次期繰越正味財産額		49,976,505

※繰越金のうち一部は現在検討中の施設建設に充てる予定です。

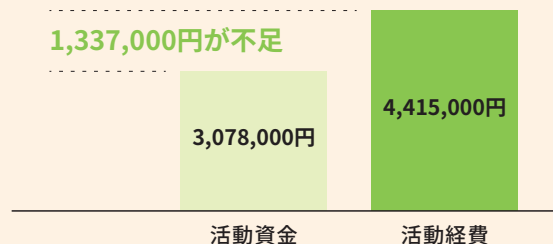
貸借対照表 (2017年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部	流動資産	現金・預金	39,841,011
		売上債権	2,665,876
		棚卸資産	219,330
		その他流動資産	436,424
	固定資産	建物附属設備	980,000
		車両運搬具	1,608,668
		什器備品	151,534
		建設仮勘定	8,683,200
		保証金	136,000
負債の部	流動負債	未払金	1,924,779
		前受金	20,000
		短期借入金	1,166,164
		預り金	460,595
		未払法人税等	70,000
		未払消費税	1,104,000
正味財産の部	正味財産	前期繰越正味財産額	30,759,217
		当期正味財産増減額	19,217,288
		正味財産計	49,976,505

2016年度の相談業務収支について

1,337,000円が不足



相談業務は、Homedoorの
生活支援事業として重要な役割があります。

この事業を支える活動資金は昨年は助成金でした。相談員の人件費、見回りの交通費など、活動のための経費は必要です。活動資金の不足を補うために、社会的課題の解決する手段として、「寄付」が必要になります。

監査報告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等の報告を受けました。財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受け、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人Homedoorの業務報告及び決算報告について、2016(平成28)年4月1日から2017(平成29)年3月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。
なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

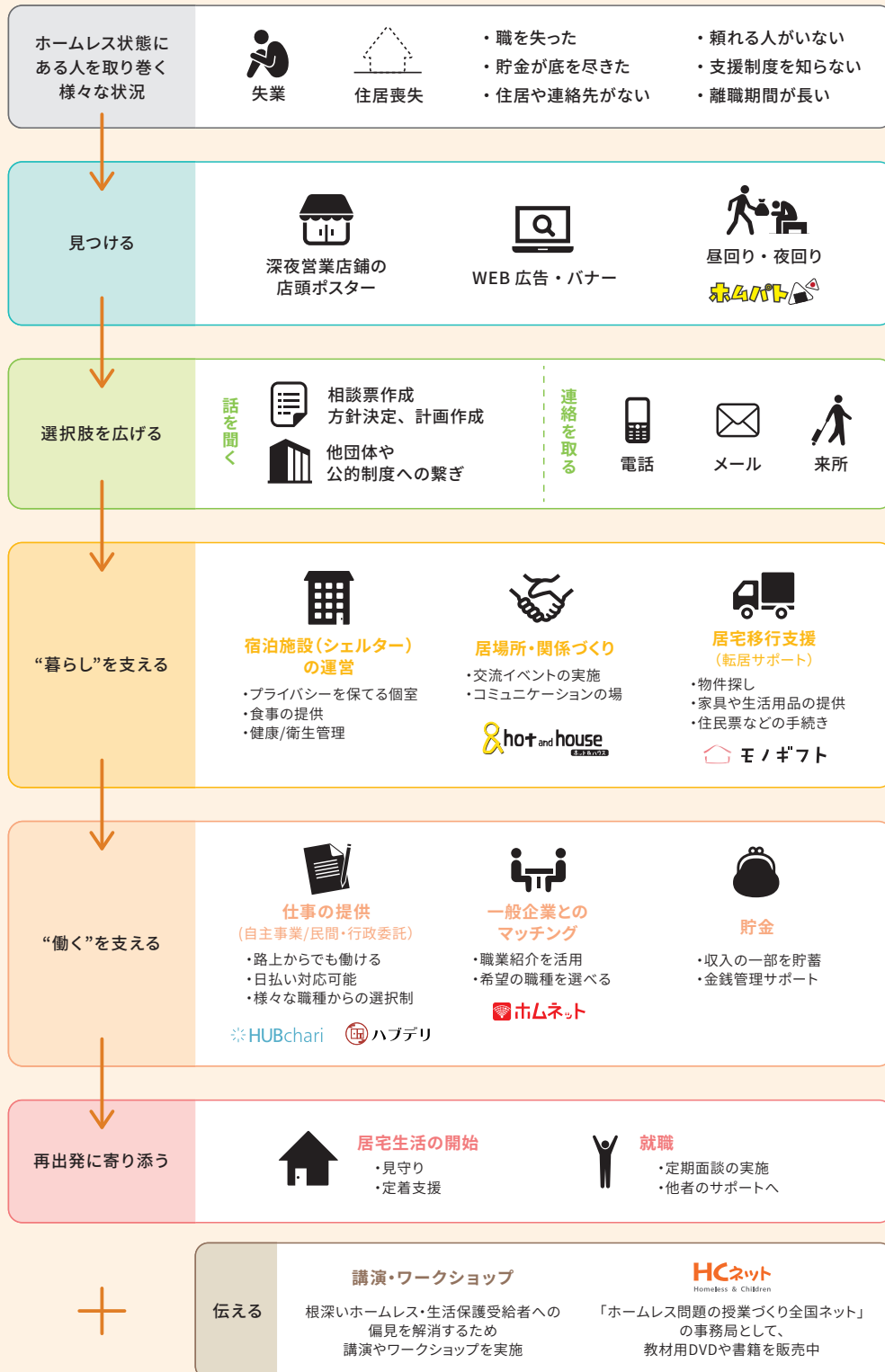
2017(平成29)年6月8日

特定非営利活動法人Homedoor監事

木原 有樹

Q. Homedoorが目指す支援の全体像を知りたいです。

A. ホームレス状態から抜け出したいと思っても抜け出せない状況や、偏見がなくなる状況、一連の支援活動で解決していきます。



Q. 2017年度に達成したい、次のチャレンジは？

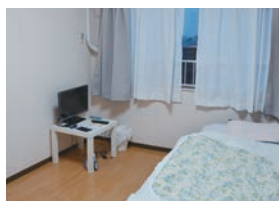
A. 2つあります。
達成するのは簡単ではありませんが、とても大事なチャレンジです。

①緊急シェルターの設置

2016年度は就労支援を受けている人への住居提供を実施しましたが、相談者が即日寝ることができるシェルターまでは用意できませんでした。

不安と緊張を抱えたまま相談にくる人たちにも「ここなら安心できる」と思える場所をつくっていく必要があると、住まいの提供を開始したことによって改めて気づかされました。

2017年度はまず小規模の緊急シェルターを用意し、こういった機能が必要かを検証していきます。



今年度オープンしたホームハウス。就労支援を行っている方が対象なので、即日入居することはできない。

②相談にきたその日からできる仕事の提供

極限まで切り詰めた生活をしていると、「選ぶ」ことがそもそもできません。お金がなければ「外で寝る」という手段しかありません。だからこそ手持ち金がほとんどない相談者にとって、現金収入を得られるというのは非常に大きな意味があります。

少しでも働いたお金があればネットカフェで横になったり、銭湯に行ったりと自分のしたいことを選ぶことができます。初回相談後に時間がある場合は自分のペースでできる内職の仕事を提供することで、少しずつHomedoorの雰囲気に慣れていってもらえるようになることもねらいのひとつです。



自分のペースでできる内職の仕事で、ホームレス状態以外の選択肢を増やす。

Q. Homedoorを応援するにはどうしたらいいですか？

A. ホームレス問題を知ってしまった人に、活動を応援する方法をいくつもお用意しています。

①ボランティア登録

まずは気軽にHomedoorのボランティアとして関わってみませんか？ボランティア登録をしていただくと、毎月25日に「ボランティア通信」が届きます。自分のスケジュールに合うボランティアへぜひお越しください。

おちゃんとたわいない話をしながら活動に関われるような様々なボランティアプログラムをご用意しています。



こちらからすぐに登録できます！

ホームパト用のお弁当をつくるボランティアもあります。



②モノギフト(物品の寄付)

ご自宅やお勤め先に、缶詰など日持ちのする食料品やお米、衣服や生活家電などがある場合はぜひご寄付いただけると助かります。(詳しくはP14)

③仕事の紹介

「携帯電話がない」「今住まいがない」などさまざまな事情があっても「もう一度やりなおしたい」という強い意志を持っている人に仕事を紹介してくださる企業さま、個人事業主さまを募集しています。(詳しくはP18)

④サポーター会員、寄付

ホームパトや相談業務はご寄付によって成り立っています。当事者からお金をもらうことが難しいため、多くの方のご協力に頼らざるをえません。(詳しくはP31)

事務所に来るおっちゃんたちに聞いてみました。

Q.

この一年で、
何が変わりましたか？

A.

よくしゃべるようになった。
今まではしゃべらなかった。

人見知りだったけど、話すようになった。
年代が近い人が多いから話ができる。

ひげを剃るようになった。
身だしなみを気にするようになった。

仕事が見つかって、 新しい友だちができた。

仕事についたことによって人から頼られるという経験が増えた。
「こんなやつでも役に立つ」ってわかった。
Homedoorを卒業できたからこそ、
こうやって顔を出し続けていきたい。



野口さん
(60代)

これからどうしようって思っていた時、Homedoorに出会えた。

Homedoorのいいところは

人が集まっているところから少しはなれているところ。

東京で支援団体にいた時は

アルコールを飲む人が周りにたくさんいたから、
結局自分も飲んではいけなかったのに飲んでしまった。

Homedoorで仕事をして、その時に
もらった7,000円はとても大きかった。



山畑さん
(60代)



田島さん
(60代)



朝倉さん
(60代)



Tさん
(60代)

無駄遣いがなくなった。

前はすることがなくて暇だったから、
お金を使わざるをえなかった。
1日どう過ごそうかと
悩まなくなった。
街中のベンチにいるときは、
周りにいる人がどんな人か
わからないから話せなかった。



西村さん
(60代)

気持ちにゆとりができた。
フルタイムの仕事が見つかって、
苦勞をかけすぎた親に恩返しを
していこうと思った。

人と話せるようになった。
話す仲間ができた。
人と話すと興味が出てきて、
「なんでもいいや」がなくなった。

ここにきたら話し相手がいる。
知らない人でも会話が生まれる。
一人でのいるのと気分が違う。

働こうと思ったら、
働けるんやって思った。

自分も同じ状況になったことによって、
ホームレスの人を見る目が
180度変わりました。

「働けよ」と思わなくなりました。
いろんな人がいるけど、
みんな事情があることを知りました。
みんな同じ人間で差がないなど
思うようになりました。



山田さん
(50代)



垣さん
(30代)



杉村さん
(60代)



Kさん
(40代)

ずっと上がりっぱなしの1年でした。

Homedoorのテレビ取材で自分もインタビューに答えたら、
たまたまそのテレビを見てくれていた清掃会社の人が、連絡をしてくれて。
仕事も決まり、収入も安定しました。
そしてついに10数年ぶりに自分名義の家を借りれるようになりました。



石井さん
(50代)



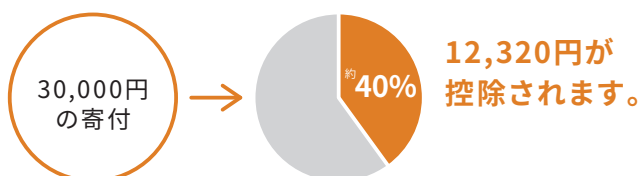
松岡さん
(40代)

何度でもやり直せる社会は つくれます。 あなたと一緒に。

Homedoorへの寄付には 税制優遇があります。

Homedoorは認定NPO法人です。これは、NPO法人のうち「一定の基準を満たしている」と所轄庁により認められた法人のことで、2%のNPO法人が認定NPO法人です。

認定NPO法人への寄付は確定申告をすることで、寄付額の約**40%**が所得税と住民税から**控除**されます。



例) 年間30,000円の寄付をした場合、12,320円が控除となります。

所得税: $(30,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 40\% = 11,200\text{円}$

住民税: $(30,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 4\% = 1,120\text{円}$

控除を受けるための3つのステップ

① 領収書の受領

領収書をお送りしますので、大切に保管をお願いします。

(毎年12月31日締めで、まとめて翌1月～2月に郵送いたします)

② 書類に添付

確定申告の書類に領収書を添付してください。

③ 確定申告

最寄りの税務署で確定申告をしてください。

(年末調整では控除できませんのでご注意ください)

寄付をしてくれている人がいるから、自分も頑張ろうと思ってこまめにこれました。ぜひこれからも他の人たちのために応援よろしくお願いします。



Homedoorを通じて
路上を脱出した
石井さん

手続きも簡単で、気軽に支援させていただけるのが有難いです。
サポーター向けに配信される「ホムドゥ通信」もいつも楽しみにしています！



サポーター会員
(弁護士)
岩田 準平さん

誰かが手伝ってくださらなければ、この冊子に書いてあるチャレンジは正直、成り立ちませんでした。ぜひ、次のチャレンジを応援して下さる「誰か」になってください！



理事長
川口 加奈

ホームレス問題を知ってしまった方へ
その「ほっとけない」気持ちが冷めてしまう前に、
寄付を通じて、このチャレンジを応援することができます。



1,080円 で

専門相談員によるカウンセリングを提供できます。



3,240円 で

ホット&ハウスでの支援講座を1回提供できます。



5,400円 で

HUBchariでの1日就労体験を提供できます。

今日からできる応援方法は2つあります。

① サポーター会員になる(継続寄付)

1日35円からHomedoorを継続的にサポートできます。
サポーター会員の皆さまには会員カード、サポーターガイドブック、
スタッフからの手紙、限定メルマガなどが届きます。

▶ クレジットカード決済で

ホームページから簡単にお手続きできます。
<http://www.homedoor.org/shien/kifukaiin>

▶ 口座振替で

お電話かメールをいただければ、口座振替申込書をお送りします。

06-6147-7018 (平日10時～18時)

info@homedoor.org



② お好きな額で寄付をする(単発寄付)

▶ クレジットカード決済で

ホームページから簡単にお手続きできます。
<http://www.homedoor.org/shien/kifu>

▶ 銀行からのお振込で

下記口座にお振込ください。
三井住友銀行 梅田支店(127) 普通8928985
トクテイヒエイリカツドウハウジン ホームドア
銀行振込の特性上、ご入金の用途を確認できませんので、
お手数ですが下記フォームにてご連絡ください。
<http://www.homedoor.org/shien/kifu/ginko>



ホームレス問題へのご寄付は多くの社会問題解決への糸口となります。
まずは、1日**35円**から、最初の一步を踏み出してみませんか？



ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人 Homedoor
Challenge Document 2016
(2016年度年次報告書)

〒531-0072 大阪市北区豊崎1-8-11

Tel. 06-6147-7018

info@homedoor.org

[公式サイト] www.homedoor.org

[Facebook] Homedoor

[twitter] @Homudokun